



(小林惣一郎さん)

がしたかったです。
小林 人数が少なく、そこに入れば自分の好きなことができるかなど。好きなように表紙をデザインしたり。
司会 佐藤さんは卒論で「あ



(佐藤真郁さん)

習科です。入部したとき、すでに部員は一人しかいなくて、僕ともう一人が入部届けを出して、三人でようやく活動が再開したという状況でした。読書会をやったり、部誌もど

きを出したりしてきました。
司会 部誌もどき？「あかべこ」の名前は？
佐藤 「あかべこ」の名前はいただいているんですが、通し番号じゃないんです。63号が九九年に出たから一回切れてたので、四冊出したのですが、入部した頃はこれほど歴史があるとは知らず、号数を受け継ぎませんでした。

司会 入部の動機は？

佐藤 小学生の頃から友だちと書いたものを見せ合ったりしていました。そのころの記憶が鮮明なので。今、この部屋に同居している文芸サークルもありますが、最初に見たとき小説というよりエッセイのようだったので。僕は創作

かべこ」研究をなさったので、ここでは一番通史的にご存知です。

血海 どうして「あかべこ」を卒論のテーマにしたの？

佐藤 もう部員が二名ということで、明日もわからなくて、とりあえず、歴史をまとめておこうかなと思いました。

■先輩、入部の動機と当時の様子を語る

高木 子どもが好きで本が好きで、卒業したら小学校の先生になりたかったので、児童文学に関わることで子どもに近くなれるかな。それと、教職に就いたら——結局就かなかったんですけど——子どもたちにいい本を薦めたりできると思って、そういう単純な理由で入りました。入ったら先輩がちょっと得意そうに「ここは伝統がある部で、あかべこの表紙はなんと丸木俊さんの絵をいただいている」と言うので、「はぁ」とびっくりしました。(扉p.23・左端下の表紙画)
血海 ああ、僕はこの表紙がとても好きだった。丸木俊さんの絵とは知らずにね。

高木 言われませんでした？

血海 ええ。さて、僕の入会のいきさつは、いやぁ……それを言おうと思ったら一時間以上かかる。(以下、入学式前夜に銭湯で身ぐるみ盗られて、新聞に出、三浪していたのがバレたこと、「努力しないで成果だけ求める男」という中学校の先生の評、弟を通じて交換日記をやりとりしてい